

## 講義外学修時間・行動調査

平成 29 年度 医学部学生（1, 3 学年次生）生活実態調査（学生の学修時間及び学修行動）

調査日：平成 29 年 6 月 12 日（月）

調査方法：記名マークシート方式（一部自由記載）調査票による調査結果

調査対象：1 学年次 120 名

3 学年次 105 名

回収人数：1 学年次 114 名

3 学年次 84 名

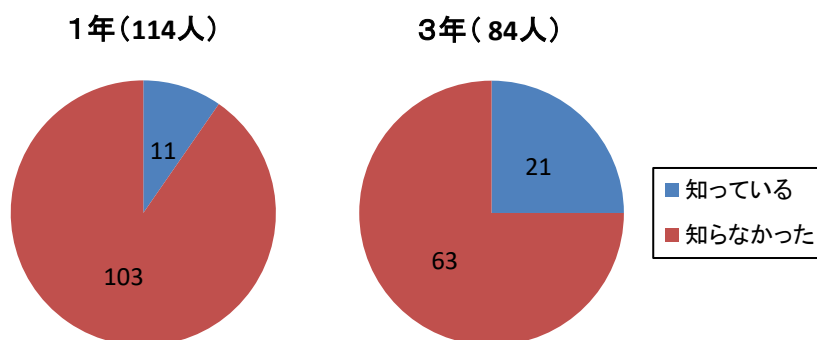
### 1. 学修時間

#### 1) 講義時間以外に必要な学修時間

単位を取得するためには、講義時間に加え、それ以外に 30 時間の学修が必要であることを知っていた学生は、1 学年次生は 11 名（9.6%）、3 学年次生は、21 名（25%）であった。

知らなかった学生は、1 学年次生は 103 名（90.4%）、3 学年次生は、63 名（75%）であった。

設問 1 単位を修得するためには、15 時間の講義に加え、それ以外に 30 時間の学修が必要なことを知っていますか。



#### 2) 講義時間外の学修時間

平日の平均的な学修時間（設問 2）は、1 学年次生は「1 時間」が 69 名（60.5%）と最も多かった。次いで「2 時間」が 26 名（22.8%）であった。その他「3 時間」が 8 名（7.0%）、「0 時間」が 11 名（9.6%）であった。

3 学年次生は、「1 時間」が 42 名（50.0%）と最も多かった。次いで「2 時間」が 22 名（26.2%）

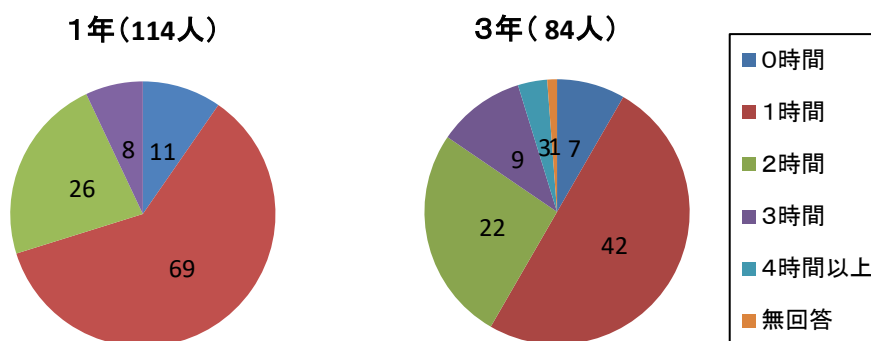
であった。その他「3時間」が9名(10.7%)、「4時間以上」が3名(3.5%)、「0時間」が7名(8.3%)であった。

休日の平均的な学修時間(設問3)は、1学年次生は「4時間以上」が38名(33.3%)と最も多かった。次いで「3時間」が34名(29.8%)であった。その他「2時間」が25名(21.9%)、「1時間」が15名(13.2%)、「0時間」が2名(1.8%)であった。

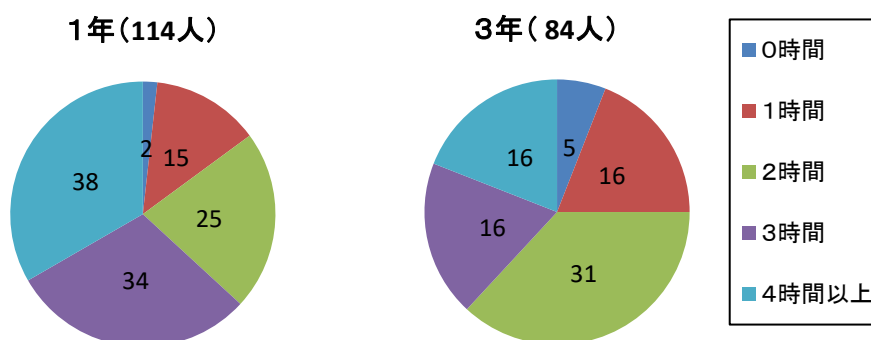
3学年次生は、「2時間」が31名(36.9%)と最も多かった。次いで「4時間以上」、「3時間」及び「1時間」が同数で16名(19.0%)であった。その他「0時間」が5名(6.0%)であった。

**〔講義時間外の学修時間について〕**

設問2 平日の学修時間(平均的な時間数)



設問3 休日の学修時間(平均的な時間数)

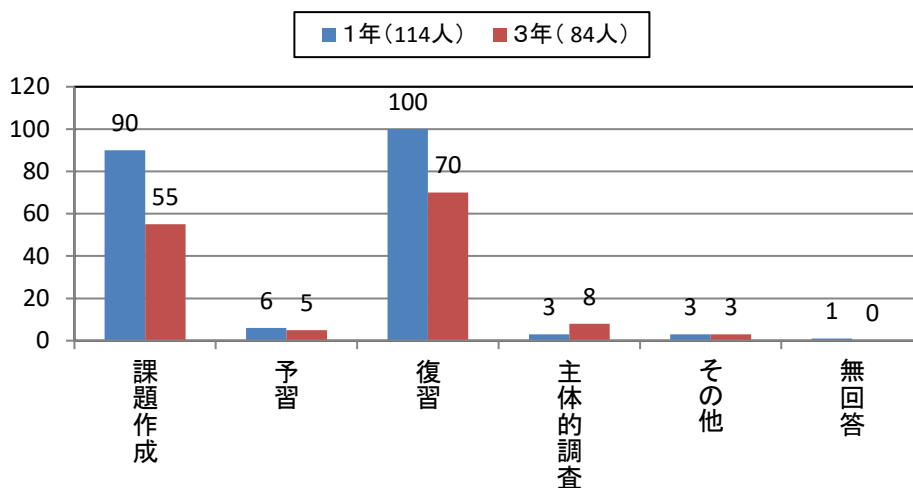


### 3) 講義時間外の学修内容

学修内容（設問4）は、「復習」及び「課題作成」が多くの割合を占めている。3学年次では1学年次に比べ「主体的調査」が増加する傾向であった。また、その他の回答として「試験対策」があった。

#### 設問4 講義時間外の学修内容について [複数回答]

(注) d : 主体的調査とは、自分の意志・判断に基づく調査や、研究室等で実施する自主的な研究も含む。



|         |      |   |
|---------|------|---|
| 「その他」回答 | 試験対策 | 2 |
|---------|------|---|

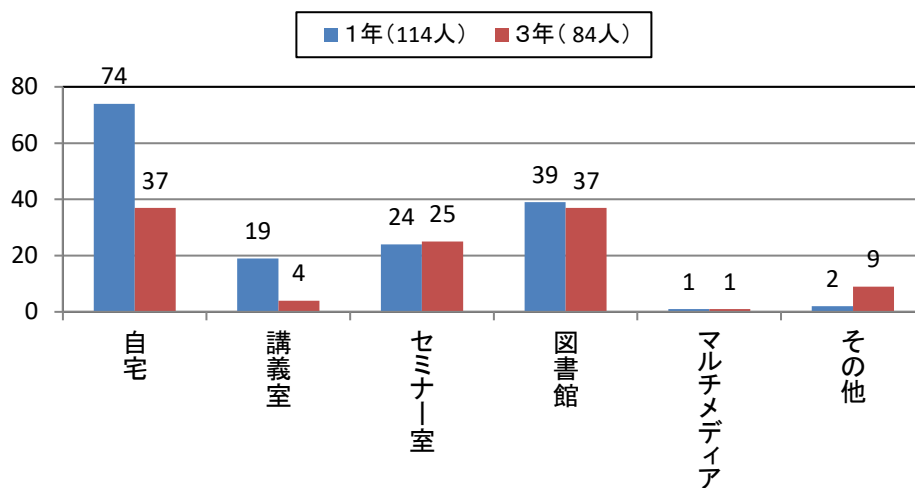
### 4) 講義時間外の学修場所

学修場所（設問5）は、1学年次生は「自宅」が74名（64.9%）と最も多かった。次いで「図書館」が39名（34.2%）であった。「セミナー室」が24名（21.1%）、「講義室」が19名（16.7%）であった。

3学年次生は、「自宅」と「図書館」が同数で37名（44.4%）と最も多かった。次いで「セミナー室」が25名（29.8%）、「講義室」が4名（4.8%）であった。

その他「学生ホール」が6名、「カフェ」が4名、「友人宅」、「電車・バス内」がそれぞれ2名であった。

#### 設問5 講義時間外の学修場所について [複数回答]



|         |           |   |
|---------|-----------|---|
| 「その他」回答 | 学生ホール     | 6 |
|         | カフェ       | 4 |
|         | 友人宅       | 2 |
|         | 電車・バス内    | 2 |
|         | 他大学の図書館   |   |
|         | 自動車学校の自習室 |   |

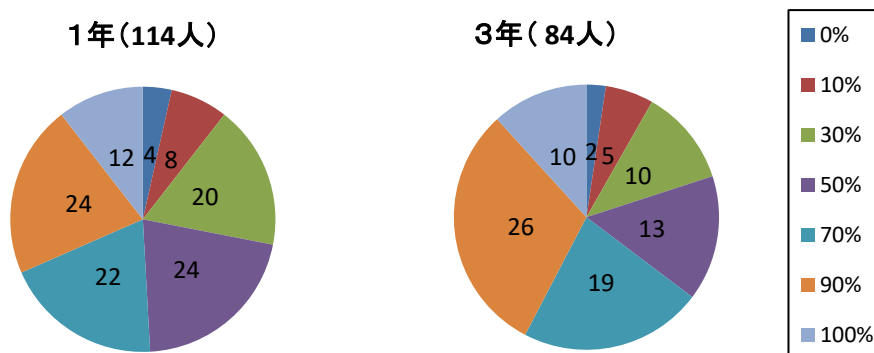
5) 講義時間外の学修割合

個人学修割合（設問6）は、1学年次生は「50%」と「90%」が同数で24名（21.1%）と最も多かった。次いで「70%」が22名（19.3%），「30%」が20名（17.5%）であった。「100%」が12名（10.5%），「10%」が8名（7.0%），「0%」が4名（3.5%）であった。

3学年次生は「90%」が26名（30.6%）と最も多かった。次いで「70%」が19名（22.4%），「50%」が13名（15.3%）であった。「100%」と「30%」が同数で10名（11.8%），「10%」が5名（5.9%），「0%」が2名（2.4%）であった。

〔講義時間外の学修方法について〕

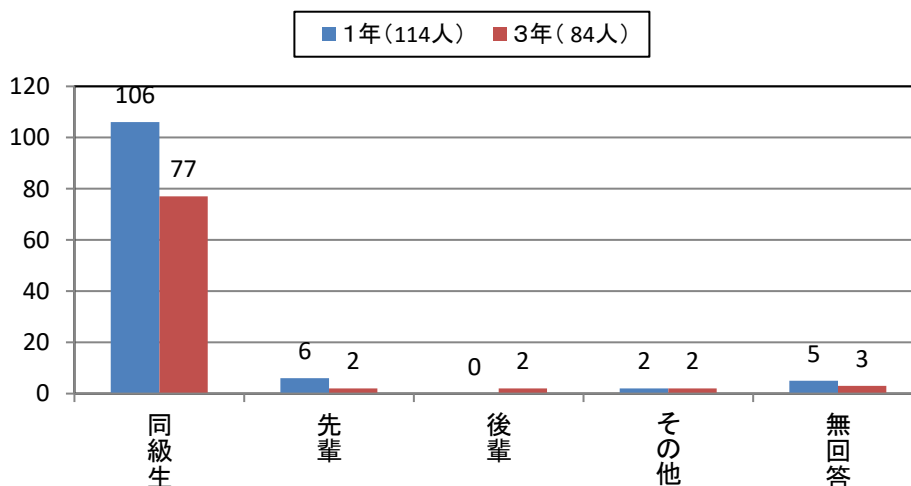
設問6 個人学修割合



6) 講義時間外の共同学修者

個人学修割合（設問7）は、それぞれ「同級生」が90%以上であった。

設問7 共同学修者〔複数回答〕



## 2. 指導教員

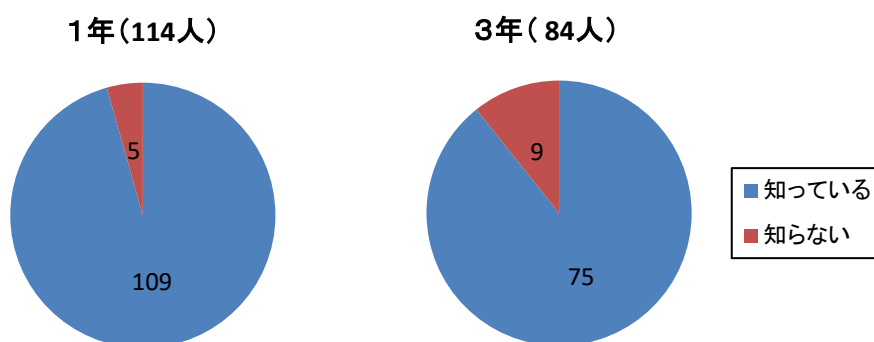
### 1) 各担当指導教員

学生自身の各担当指導教員が誰であるか知っていた学生は、1学年次生は109名(95.6%)、3学年次生は、75名(89.3%)であった。

知らなかった学生は、1学年次生は5名(4.4%)、3学年次生は、9名(10.7%)であった。

### 【指導教員について】

設問8 (指導教員制度がありますが) あなたの指導教員は誰かを認識していますか。

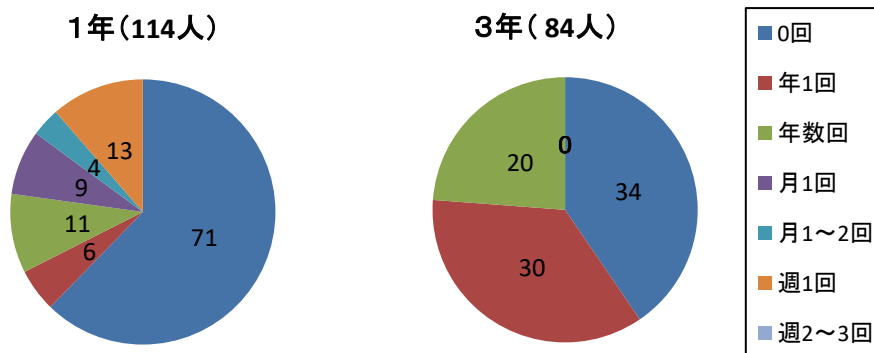


### 2) 面談回数

面談回数(設問9)は、1学年次生は「0回」が71名(62.3%)と最も多かった。次いで「週1回」が13名(11.4%)、「年数回」が11名(9.6%)であった。「月1回」が9名(7.9%)、「年1回」が6名(5.3%)、「月1~2回」が4名(3.5%)であった。

3学年次生は「0回」が34名(40.5%)と最も多かった。「年1回」が30名(35.7%)、「年数回」が20名(23.8%)であった。

設問9 指導教員との話や面談回数(講義時間内を除く) ※最も近いものを選択



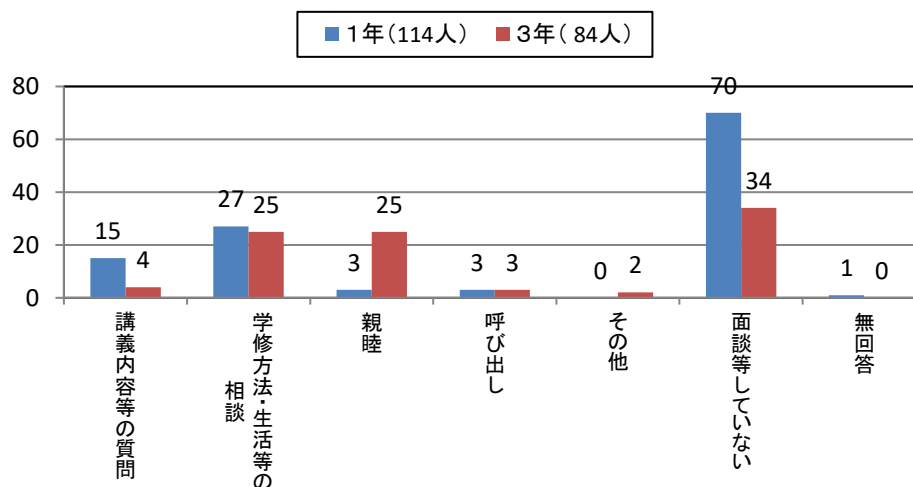
### 3) 面談内容

面談内容（設問 10）は、1 学年次生は「面談等していない」が 70 名（61.4%）と最も多かった。次いで「学修方法・生活等の相談」が 27 名（23.7%）,「講義内容等の質問」が 15 名（13.2%）であった。「親睦」と「呼び出し」が同数で 3 名（2.6%）であった。

3 学年次生は「面談等していない」が 34 名（40.5%）と最も多かった。次いで「学修方法・生活等の相談」と「親睦」が同数で 25 名（29.8%）,「講義内容等の質問」が 4 名（4.8%）,「呼び出し」が 3 名（3.6%）であった。

設問 10 話や面談の主な内容 [複数回答]

※ 設問 9 で「a : 0 回」と回答した場合は,「f : 面談等していない」にマークしてください。



### 3. 科目責任者・科目担当者

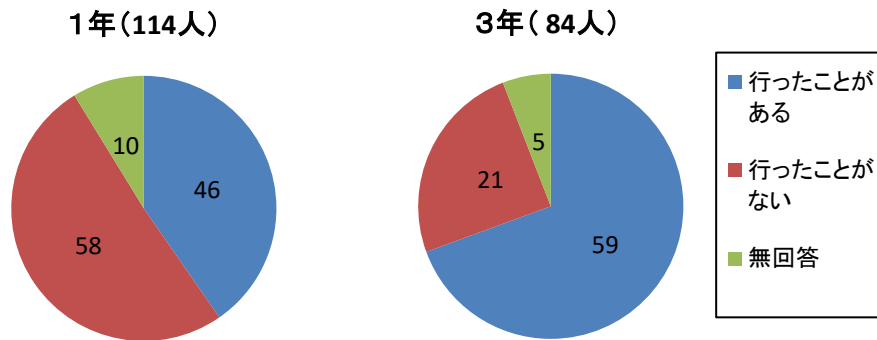
#### 1) 部屋への訪問

科目責任者や科目担当者の部屋を訪ねたことがある学生は、1 学年次生は 46 名（40.4%）, 3 学年次生は、59 名（69.4%）であった。

訪ねたことのない学生は、1 学年次生は 58 名（50.9%）, 3 学年次生は、21 名（24.7%）であった。

#### 〔科目責任者や科目担当者について〕

設問 11 科目責任者や科目担当者の部屋を訪ねたことがありますか。（講義時間内を除く）

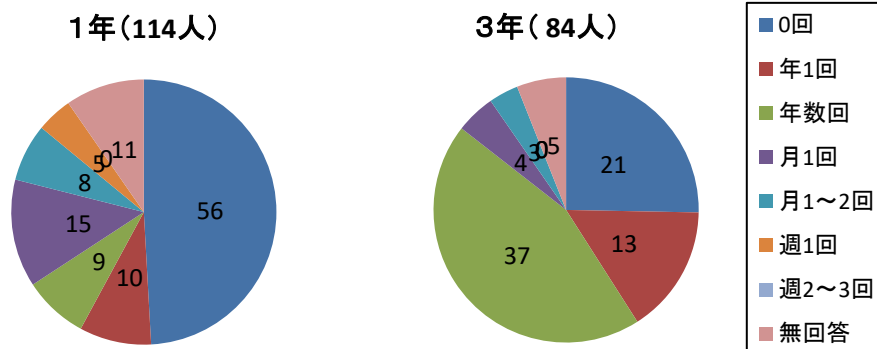


## 2) 部屋への訪問回数

訪問回数 (設問 12) は、1 学年次生は「0 回」が 56 名 (49.1%) と最も多かった。次いで「月 1 回」が 15 名 (13.2%)、「年 1 回」が 10 名 (8.8%) であった。「年数回」が 9 名 (7.9%)、「月 1~2 回」が 8 名 (7.0%)、「週 1 回」が 5 名 (4.3%) であった。

3 学年次生は「年数回」が 37 名 (44.6%) と最も多かった。次いで「0 回」が 21 名 (25.3%)、「年 1 回」が 13 名 (15.7%) であった。「月 1 回」が 4 名 (4.8%)、「月 1~2 回」が 3 名 (3.5%) であった。

設問 12 科目責任者や科目担当者の部屋の訪問回数 (講義時間内を除く) ※最も近いものを選択  
 ※ 設問 11 で「b : 行ったことがない」と回答した場合は、「a : 0 回」にマークしてください。



## 4) 訪問事由

訪問事由 (設問 13) は、1 学年次生は「面談等していない」が 55 名 (48.2%) と最も多かった。次いで「講義内容等の質問」が 21 名 (18.4%)、「学修方法・生活等の相談」が 14 名 (12.3%)、「呼び出し」が 5 名 (4.4%)、「親睦」が 4 名 (3.5%) であった。

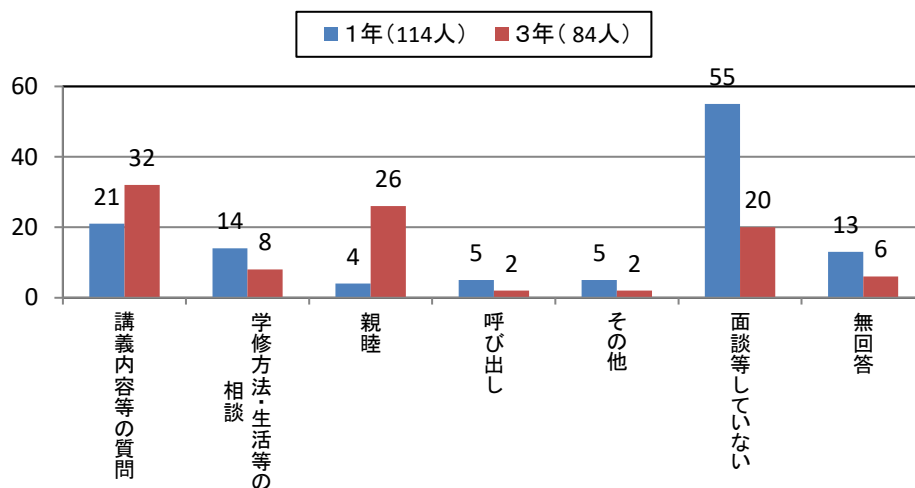


3学年次生は「講義内容等の質問」が32名(38.1%)と最も多かった。次いで「親睦」が26名(31.0%),「面談等していない」が20名(23.8%),「学修方法・生活等の相談」が8名(9.5%),「呼び出し」が2名(2.4%)であった。

その他「レポート提出」が2名であった。

設問 13 訪問事由 [複数回答]

※ 設問 12 で「a : 0回」と回答した場合は、「f : 訪問していない」にマークしてください。



|         |             |   |
|---------|-------------|---|
| 「その他」回答 | レポート提出      | 2 |
|         | 推薦入試対象者への面談 |   |
|         | 面談          |   |

#### 4. 学修行動の課題と対策

まず、平日、休日における講義時間外の学修時間であるが、平日は1時間以下のものが1年次生では約7割、3年次生では約6割となっており、予習、復習を十分に行える時間が確保できていない可能性がうかがわれた。一方、休日に関しては、1年次生で半数以上が3時間以上学修していたが、3年生では半数以下であった。1年次生では、新カリキュラムが導入され、月曜日に小テストが実施されることなどが影響し、休日の学修時間が3年次生よりも多いことが推測され、このようなカリキュラムが自発的な学修につながっている可能性が示唆された。今後、新カリキュラムが導入される学年が増えていくことから、講義時間外の学修時間の必要性は増えると思われる。一方で、カリキュラム内で自学の習慣を身に付けさせること、さらには休日だけではなく継続的に平日の学修時間を確保して膨大な医学知識を着実に修得させる試みも必要と考えられ、これらは今後の課題となってくるであろう。

しかしながら、1年次生、3年次生ともにその学修内容は課題作成、復習が大部分であり、予習があまり行われていないことが明らかになった。課題に関しては、講義、実習後に課されるそれらの内容に関するレポートが多いと思われるが、もしそうだとすれば、予習なしで講義に臨み、その後、復習や課題作成を実施していても、講義内容の十分な理解につながるかどうかは疑問である。わずかでも準備学修や積極的な自学を学生に誘導する試みも、講義の際の課題提出に必要と思われる。

さらに、一人で学修している割合が50%を超えるものが1年次生では約半数、3年次生は6割以上であり、学修内容を学生相互であまり共有していないことがうかがわれた。一人で学べることには限界もあり、また、ただ知識のみを詰め込むのではなく、知識を利活用することが医学部の学生には求められる。今後は、反転授業に代表される **Active learning**、グループ学修の内容、効果などをさらに各教科で見直し、講義・実習前に自ら内容を理解することに取り組み、講義・実習ではその確認を行った後、さらに復習、そして予習…というサイクルを、基礎科学、基礎医学、そして臨床医学と、学部全体で実施していくことが望まれる。

また、指導教員制度についてはほぼ周知されているものの、あまり面談などは行われておらず、学修に関する相談が少ないという結果になっている。1年次ではアンケート実施時期が指導教員の個別指導が開始される前であったため、回数が少なく表れる結果になっている。本来、年間数回の訪問・面談の機会を確保することになっているが、各教員の意識によって多寡があるため、検討を必要とする。

今後、上記のように予習から始まる学修を学生が実施するためには、その予習、復習内容をサポートできる教員側の体制も必要であり、指導教員制度と合わせ、各科目内容に関する質問を積極的に受け付ける時間（オフィスアワーなどを活用）の設定等と併せてそれら体制の利活用を学生に周知徹底していくことも重要であろう。